



優秀賞

島根県 松江遊技業防犯協力会
「学童野球大会開催」事業



松江遊技業防犯協会 会長
金田禮顯さん



松江遊技業防犯協会 副会長
徳田泰幸さん

野球を通して、青少年の健全育成と、

近年、都市化や核家族化が進み、価値観が多様化する中で、地域社会のつながりが希薄になりつつある。それにより、地域文化の衰退、青少年の引きこもり、犯罪の増加など、地域発のさまざまな課題が発生している。そんな地域社会に求められているのは、人と人がつながる場であり、地域コミュニティの崩壊が叫ばれている今こそ、行政はもちろんであるが、企業や組織も地域社会の一員として、そのための役割を担うべき時を迎えているといえるだろう。遊技業界にとっても地域の人々に認知され、地域とともに発展していくためには、それは必要なことである。

松江市の18のホールが加盟する松江遊技業防犯協力は、1978年(昭和53年)の設立以来、さまざまな分野で地域社会貢献活動に取り組んでいる。スポーツ振興もそのひとつであり、少年野球を通して青少年の健全育成と地域間の交流を目的として、学童野球大会を主催してきた。2008年(平成20年)は、11月2、3、8日の3日間、松江市営野球場を主会場に、第8回学童野球大会「松江遊技業防犯協会杯」を開催した。

学童野球大会は、松江市軟式野球連盟に所属する26チーム、約500名の選手と、保護者、関係者約200名が参加して行われる。松江遊技業防犯協力は、大会の開催に向けて、毎年、年度初めに軟式野球連盟と打ち合わせをし、その後抽選会で対戦の組み合わせを決める。さらに試合や開会式に必要な諸用具備品を準備し、運営費を負担している。

大会に先立ち、11月1日、参加チームの少年を対象に野球教室を実施。共催の中四国ヤクルト本社、山陰中央ヤクルト販売株式会社の協力を得て、ヤクルトスワローズのOB選手2名を迎え、守備やバッティングなどの実践的な指導を受けた。参加した各チーム4名ずつ約100人の少年たちは、元プロ野球選手による本格的な指導を受けられるとあって、みな目を輝かせて真剣に取り組んでいた。少年たちにとっては、またとない心躍る体験になったに違いない。この野球教室は、子供はもちろんのこと、父母からも大好評で、「ぜひまた野球教室を開いてください」と引き続きの開催を望む声が多く上がっている。

地域間の交流を図る



年間行事として定着しつつある大会



優勝旗を授与される乃木ライオンズ

松江警察署長をはじめ、軟式野球連盟の役員関係者らが出席した開会式のあと、3日間にわたり参加26チームが白熱した戦いを繰り広げた。決勝は、乃木ライオンズが八雲ベアーズを8-1で下し、優勝を飾った。優勝チームには優勝旗が授与されたほか、準優勝、3位までの選手全員に金、銀、銅のメダルを授与。さらに最優秀選手、優秀選手が表彰され、また、選手全員に参加賞として大会名入りのスポーツタオルが贈られた。

この大会の模様については、対戦の組み合わせ、実施状況、大会結果などが地元紙の山陰中央新報に掲載され、松江のみならず山陰の地域住民に広く紹介されている。本大会も8回目を迎えて認知度も高まり、軟式野球連盟の年間行事としてすっかり定着している。

また、平成19年の甲子園での高校野球大会島根県代表として出場した開星高校の正選手で本大会の第1回大会に出場した3選手が甲子園で大活躍し、今回の開会式



大会には約500名の児童が参加



元ヤクルト選手による野球教室も開催

で始球式を行ったこともあり、大会への期待と子どもたちの士気も大いに高まっている。

スポーツを通じて地域住民が交流を深めていくことは、住民同士の連携を深めるとともに、住民がひとつの目標に向かってともに努力し、達成感を味わったり、地域に誇りや愛着を感じ、そのことが地域の一体感や活力が生まれ出される面が大きい。その意味で、松江遊技業防犯協会が継続して開催している学童野球大会の果たす役割は大きい。

野球はルールを守り、チームの一人一人が力を合わせてこそ楽しめるスポーツである。最近、乏しくなっているとされる規範意識や、仲間と協力し合うことの大切さを青少年に身をもって教えるには最適なスポーツではないだろうか。青少年の健全育成とは、そのようなことを地道に積み重ねることで達成されるのだと思う。おそらく早道はない。